

「地域コミュニティ(コミプラ形成地域)のモデル的な取組創出」事業実施報告

【事業名】 地区コミュニティ協議会連携によるコミュニティビジネス推進プロジェクト

実施主体

【市町村】 薩摩川内市 未来政策部 コミュニティ課
【団 体】 友ダンジェロ有限会社



背景

薩摩川内市ではコミュニティビジネスを推進しており、これまでに市の補助事業も活用しながら地区の資源を活かした商品開発や地区の課題解決のための新規事業の立ち上げなど一定の成果が見られるが、補助期間終了後の資金や人材の確保等、事業の継続について懸念の声も聞かれ、コミュニティビジネスに関心があっても、新たに取り組むことに慎重な地区も見られている。一方、各地区コミュニティ協議会の魅力ある特産品や郷土料理は、市主催の生涯学習フェスティバルや各地区で開催されるイベント等での販売の際には行列ができることもあるなど、各地区の有するポテンシャルは高い。

地域課題

新型コロナウイルス感染症の影響により、市主催・各地区のイベント等の中止が余儀なくされ、販売の機会が喪失している。また、地区の人口減少と少子高齢が深刻化するなか、担い手の不足により各地区単体でのイベント等開催そのものが、今後は一層難しくなることが想定されている。

《事業実施までの経緯》

事業のねらい

民間施設SOKO KAKAKAの集客や広報等の手法を活かすことで、地区コミュニティ協議会が小規模ながら着実にビジネスに取り組むことのできる持続可能な仕組みの構築と複数地区の連携によるスケールメリットを生かした事業展開、多様な世代へのコミュニティ活動の浸透、収益の確保による地区住民の地域活動への参加意欲の向上、各地区への交流人口の創出を促進する。

事業概要

48地区コミュニティ協議会のうち、これまでコミュニティビジネスに取り組んだ地区の事業の検証と今後取り組む意欲のある地区への地域資源のPR方法等の支援を行いながら、それらの地区が連携したPTの結成と、SOKO KAKAKAのチャレンジスペースを活かした物販販売を実践する。

成果

- 1 共同販売の運営システムの構築(数量管理、売上報告等)
- 2 通常営業を行う商業空間での出店で、地区内での催事や市が開催するイベントとは異なる客層(具体的には、催事と思って足を運ばない層)に販売する機会となり、新たな環境での出店、接客方法・事前告知の必要性に関してを主体性を持って考える機会となった。
- 3 地区コミ間のコミュニケーションが生まれコラボ商品等の検証も行う機会となった(湯田地区の野菜を使用し陽成地区がケーキを試作)
- 4 コミュニティビジネスで様々な商品があることを市内の幅広い世代に認知してもらうことができた。
- 5 これまで各地区が行なってきた催しに、他地区からKEMON COME ONの形で出店する実績ができた。

今後の取組

- 1 各地区のイベントへKEMON COME ONとして出店を行い、出店機会の増加からコミュニティビジネスに対する意欲や複数地区での連携活動の機運を醸成していく。
- 2 商品を陳列するために作成した4つの什器を、コミュニティビジネスを積極的に行う4地区(峰山、大馬越、蘭牟田、湯田)に振り分け、周辺地区が4地区に商品を預け、販売を行えるよう活用してもらう。
- 3 上記1・2を市の協力を得ながら自主的に遂行し、将来的に広域的な開催を促進する。



協働事業の感想

団体からの声

個性的で魅力ある地区が一生懸命取り組んでいるからこそ、地域課題を包括的に解決するビジョンを組み込みながら、今回のKEMON COME ONの取り組みを継続してほしい。普段とは違う年齢層に購入してもらえた感想を言ってもらえて、嬉しかった。

市町村担当課からの声

地区の皆様で意見を出し合い、店舗運営が日々改善されていく様子が見られた。今後、地区間連携がさらに深まり、KEMON COME ONが市内で一層浸透されることが期待できる。

地域コミュニティからの声

他地区との連携により、新たな視点でコミュニティビジネスに取り組んだ貴重な機会であった。

県担当課からの声

地区間の連携により、新たなコミュニティビジネスの機会創出につながった。今後、他市町村等への広域的な展開が図られるよう取組事例を周知していきたい。